

e-ビーフNEWS 北の牧場から

June 2023

十勝の花盛り

気温も急上昇。十勝も夏日になることが増えました。それでも朝は10℃以下の日があり、寒暖差が20度近くにもなります。季節の変わり目ですね。強風も吹き荒れ、先日は空港付近で大きな竜巻が発生。ニンジン畑がやられました。おひさまののぼりが早く3時には明るくなり、7時ごろまで明るいです。「何かやらんと」と焦りますね。周りの木々たちは、フサフサの緑の衣をつけ、下草にも白やピンクの花が咲きあでやかです。キツネやクマたちも活発に動き、出会いがしら事故も発生しています。

畑では、秋撒き小麦が伸びて、畝が見えないほど緑で覆っています。またほかの畑では、線に出た芽がきれいに縞模様を作っています。牧場のデントコーン畑でも、鳥に食われることもなく線に芽が出てきました。先日、町営牧野に和牛とアンガス3頭入牧しました。早速新鮮な草をもくもく食べていました。10月下牧までどこまで太るか楽しみです。



活動のお知らせ

- 6/9(金) 13:00~16:30 **第24回定期総会(特定非営利活動法人および肉牛飼養技術研修会)の開催**
 新得町 北海道立総合研究機構 畜産試験場 1階 講堂 ハイブリット形式 Zoom(岩上さんセッティング)
 《プログラム》
 1) 第24回定期総会(13:00~14:00)
 (1) 2022年度事業報告・決算報告
 (2) 2023年度事業計画(案)・予算(案)
 (3) その他 役員改選
 2) 肉牛飼養技術研修会(14:00~16:30)
 ・宮北牧場 アンガス牛枝肉600kg生産の挑戦
 ・引き続き e-びーふ牧場(北の牧場舎)の飼養・肉質分析
 日本獣医生命科学大 動物栄養学教室 柴田昌宏教授

NEWSばか読み

- 輸入鶏卵 調達の動き 鳥インフル影響 不足高値から国産相場も高騰 5/1:国際波及
- デントコーン用の子実コーンにウィスキー原料使用 食用需要 5/1:人畜競合
- かぼちゃ異例の高騰 産地NZ台風で供給源5/2:グローバルリスク
- 道の駅 発足から30年 地域消費支える拠点5/2:新たな需要の喚起
- 農水省 酪農対策再び補てん金 飼料自給強化条件5/3:根本から
- ホクレン 生乳受託乳量4月5.3%減 生産抑制効果 5/3:効果出過ぎ?
- コメ由来プラ(ライスレンジ)活用急拡大 専用米生産各地で 5/4:多様性開発需要
- FAO・WFP世界飢餓2億5千万人6千万人増過去最多 ウクライナ紛争で上昇5/4:世界波及
- 子ども数 過去最低1435万人 昨対30万人減5/5:少子化対策進まず
- フレッシュペットフード伸長50億円 国産原料使用し鮮度と安心 5/5:重要な需要先
- 根釧地区の和牛生産活動活発 24年と場建設着工 5/6:産地活動になるか
- 外食需要が大きく回復 和牛需要伸び相場回復5/8:継続期待
- みどり戦略の各自治体作成 多様な数値目標5/10:とりあえず進め
- 米国 対米輸出低率関税枠が消化 関税値上げに 5/10:真意の商品価値観問われる
- 財務省 国の借金1270兆円 最大を更新5/11:誰が止めるの
- 韓国 肉牛牧場で4年ぶりに口蹄疫発生 5/12:海外往来活発、防疫しっかり
- 財務省 国際収支54%減9兆円 貿易赤字拡大過去最大 5/12:国の力
- 長野畜試 牛飼料に柿皮添加しゲップ減検証5/13:飼養成績がどうか
- 牛ゲップ減の飼料添加剤開発実証が活発5/16:ブーム?
- USDA23/24世界穀物需要 コーン・大豆生産量が最大 南米回復 5/16:下がるか
- Jクレッジット 水田中干しや秋耕も対象 制度利用広げる 5/17:どれが対象になるか
- JAICA22年食肉消費 全畜種で減少 在庫量増加 外食回復遅れ 値上げ影響5/20:影響大
- 和牛輸出拠点化進む 9年で倍増イスラム圏も5/23:拡大に
- 北海道全共27年 十勝開催決定5/23:来たぞ
- 細胞農業研究機構が発足 培養肉開発5/23:さて
- ブラジルで鳥インフル発生 国内輸入の7割最大の輸入先 5/24:世界規模
- 政府 骨太方針 食糧安保 輸入脱却に生産拡大指針5/25:本気度?
- ホクレン集計 1年間で酪農家242戸減少(▲5%) 5/26:これで済まないぞ
- JA帯広かわにし バイオガス副産物消化液で多作物で実証実験開始 5/27:可能か
- ドローン農業活用広がる 登録農薬増加、牛舎屋根洗浄や牛追い 5/30:可能性が大きい
- 農水省 農業基本法改正で「国民一人一人の食糧安保」 5/30:国の責任、方針は
- 植物由来食品(プラントベースフード)の拡がり 国産大豆の活用制拡大 5/31:多様性
- コロナ5類移行で外食、食べ放題焼肉屋伸長5/31:復活なるか
- 子実コーン販売会社「Maiz」ホクレンと業務提携 5/31:価格安定策か

ホルス

GW明け以降販売状況悪い。
相場もGW明け以降高騰する場面は無く@900台に留まっている。
頭数は慢性的に少ないが引合も弱く相場は停滞状況。
パーツについては特に上位部位鈍くバラ系も評価弱い。
赤身の引合問合せあり、切落しは順調か。
梅雨入り目前で今後の販売状況に注目も大きな好転材料は乏しい。

経産牛

経産牛相場は上げ基調での推移。
上々頭数は各産地少なく、見込みより減傾向で例年より取扱い頭数少ない印象。今後さらに頭数減可能性有り相場状況に注視。
既に相場高騰しておりパーツの価格改定もチラホラ。
赤身中心にバラ系、上位部位スライス材の価格見直しと物量確保の動き。
挽き材の引合も引き続き維持しており、産地での出回り不足から数量調整も示唆。価格改定と物量調整の動きになりつつ…。

左先生の畜産学研究NEWS

1.畜産技術816号(2023.5)

(1)国内情報2:堆肥の流通における課題と対策(安松恵一郎、農水省畜産振興課)

世界の肥料需要は増加の一途を辿っています。日本の肥料需要は世界の0.5%でほぼ全量を輸入に依存しています。国内の家畜排泄物、下水汚泥などの資源を耕種農家の求める良質肥料生産に向けた技術が求められています。わが国の家畜排泄物は8,100万t/年で乳牛、肉牛、豚で1/3ずつ算出とされ、水分が40-50%もあります。耕種農家の求める高品質堆肥は水分が30%程度で臭気が少なく、窒素飢餓をおこさない、雑草の種子が死滅していることなどです。堆肥の広域流通の対応策としてはペレット化があります、その処理過程でのコストは嵩むものの水分が15%以下になりカビ発生が抑えられ耕種農家の利便性が増します。農水省はこの畜産由来や下水汚泥資源などの堆肥化、有効利用による土壌への炭素貯留、GHG排出削減による環境負荷低減に資する支援を推進しておりその活用は家畜排泄物の適正な切り返しなどと共に有用です。

(2)海外統計DATA:米国農務省2022年世界農産物輸出入見通し(木下良智、公財日本食肉生産技術開発センター)

主要国の食肉輸出:世界最大の牛肉輸出国はブラジルで2022年は410万tですが中国などの強い需要に支えられています。豪州の牛肉輸出は近年の干ばつによる頭数減を持ち直し、世界

第3位の輸出160万tを維持しています。世界の牛肉輸入:2022年の牛肉輸入国の輸入量は1,320万tで中国・香港の牛肉輸入が世界の牛肉貿易最大のシェアを占める状況に変化はありません。米国の牛肉輸入は国内生産増により輸入量は2022年には150万t以下に減少ですが世界第2位の輸入国です。3位日本、4位韓国ですがそれぞれ961千t、828千tで主要輸入国と較べ少ない量です。

2.2022年度農業白書(食料・農業・農村の動向)(2023.5.27北海道新聞)

政府は2022年度の農業政策を総括した白書を閣議決定しました。世界情勢からみて日本の食料安全保障のリスクが高まっていることから、国内の生産基盤の維持強化による食料安強化を計る時期、「転換点」と結論付けています。2022年の農産物輸入額は9兆2千億円に及んでいます。中国・米国・ブラジルなど特定の少数国からの肥料・飼料依存が高く、その高騰からの生産コスト上昇を農産物への価格転換できていないことが指摘されています。白書としての今後の対策は輸入依存の脱却が課題で、生産資材の国内代替品への転換、小麦・大豆の国内生産の拡大など、スマート農業の推進と共に国内農業強化による食料の安定供給に必須であることが強調されています。

資源循環型肉牛生産シンポジウム 2022

話題提供「脱酸素循環牧場・地域を目指す」3回シリーズ②

十勝清水町 放牧酪農家 出田牧場 出田基子氏



放牧酪農の良さ

～年を幸せにしてこそ、人も幸せになれる～

- 放牧は牛の足腰が丈夫になる
- 出田牧場の平均産乳量は4産以上
- 牛1頭1頭を大切に長生きさせてこそ人も幸せに



牛舎がない

～低コストの一つの要因、牛に教えられて～

- 牛舎を持たず低コスト化
- 当初はフリーバーンを利用したが、牛は冬でも外にいて、雪の上で寝ていることを経験
- 牛舎は牛のため？人のため？
- 当初は乳頭の凍傷などがあったが、今はない(遺伝的に強い牛が残った、温暖化の影響?)



転載・再利用は固くお断りします